

目的

収集資料や調査・研究成果を用いて原子力災害を追体験・実感できる場を提供し、原子力災害の実態や復興に向けた様々な取り組みへの理解を促進する。

主な実施内容

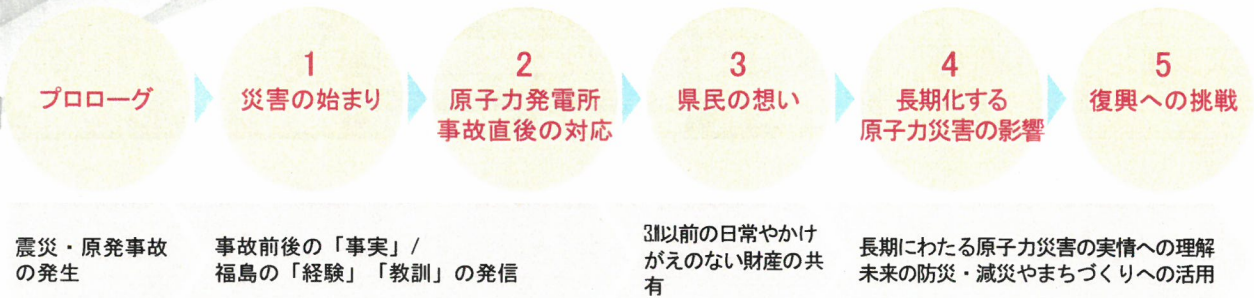
- ①過去や未来を含めた原子力災害の実態を追体験・実感できる展示（展示内容は下図のとおり）
- ②語り部の「生の声」を通じた原子力災害の経験や教訓の解説
- ③原子力災害の記憶や経験の継承、復興への取り組みや防災・減災の情報発信などに関する企画展の開催

展示内容

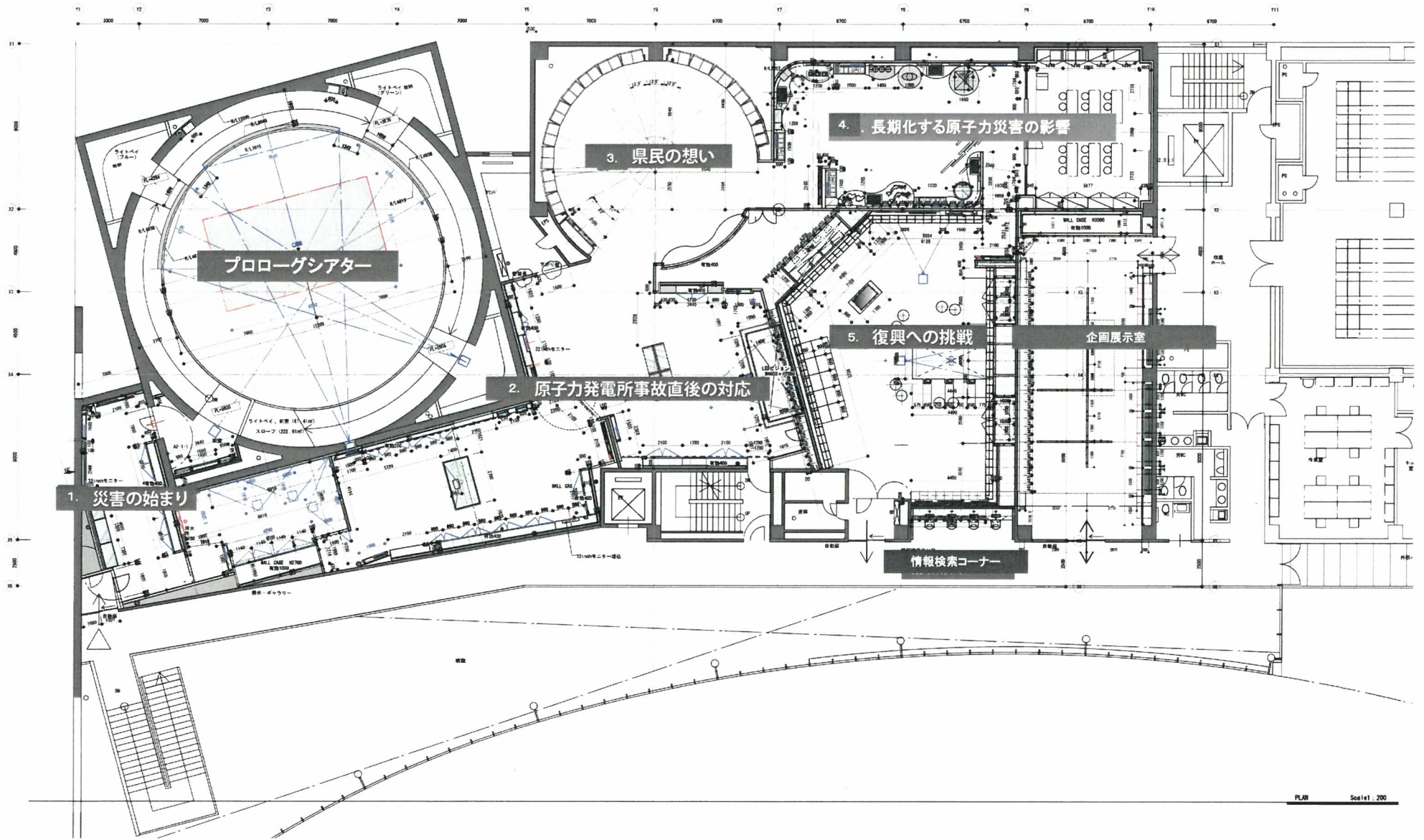
展示エリア全体イメージ



展示ストーリー



■ 展示平面計画 (2F) S=1/200



各ゾーンの展示内容

プロローグシアター

概要

原子力発電所と共存してきた地域の日常が、3.11の震災をきっかけに一変した。地震、津波、そして原子力発電所事故というこれまで経験したことのない複合災害に直面し、手探りで対応した多くの人々の状況を、当時の映像を組み合わせることで伝え、続いて見学する展示ゾーンのイントロダクションとしての役割を担う。当たり前の日常が災害により突如一変することを意識させ、この災害の「自分事化」のファーストステップの場とする。

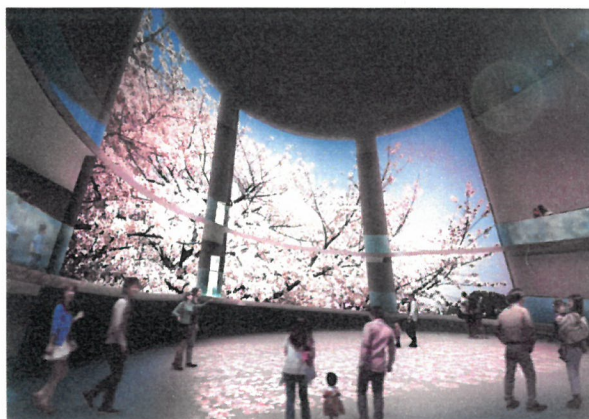
主な展示構成

- エネルギー変遷と福島
- 原子力発電所と地域の共存共栄の様子
- 3.11
- 原子力発電所事故、避難の開始
- 避難を余儀なくされた町
- 除染～帰還へ

展示等内容

- 導入映像

【展示イメージ】



1. 災害の始まり

概要

平穏な暮らしを一変させた地震と津波、それに続く原子力発電所事故。複合災害の発生を受け、人々はどのように行動したのか。事故前・事故当時・事故直後の状況を時系列でたどり、様々な資料・証言・事故調査の記録から、原子力発電所事故の始まりを克明に描いていく。

主な展示構成

- 事故前の暮らし
- 東日本大震災～地震と津波の記録～
- 原子力発電所事故の発生
- 災害対策本部の記録

展示等内容

- 映像資料（証言、記録、報道等）
- 実物資料
- 解説（地図、文章、模型等）

【展示イメージ】



2. 原子力発電所事故直後の対応

概要

錯綜する情報、転々とする避難生活。これまで経験したことのない原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、避難などの様子に焦点を当て、様々な資料や証言などをもとに振り返る。

主な展示構成

- 避難の開始
- 県内に広がる不安
- 国内外の反応と支援

展示等内容

- 映像資料（証言、記録、報道等）
- 実物資料
- 解説（地図、文章等）

【展示イメージ】



各ゾーンの展示内容

3. 県民の想い

概要

平穏な日常が原子力発電所事故後にどのように変わってしまったのか、県民の想いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせで発信する。

特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評など、原子力災害特有の事象を中心に発信する。

主な展示構成

- 災害時に感じた不安・恐れ
- 楽しかった学校生活・突然の別れ
- 家族や地域生活との別れ・変化
- 生活基盤の変化・将来への想い

展示等内容

- 映像資料（証言、記録）
- 実物資料
- 資料と映像複合演出

【展示イメージ】



4. 長期化する原子力災害の影響

概要

原子力災害が長期化する中で、福島県の人々がどのように対応してきたか、タッチパネル解説や資料を通して学んでもらう。

特に、測定機器などの実物資料を活用した研修やワークショップを行うことで、原子力災害の特徴や実態への気付き・学びを提供する。

主な展示構成

- 除染
- 風評の払拭
- 長期避難への対応
- 健康に関する取り組み

展示等内容

- 映像資料（インタビュー等）
- 実物資料
- 解説（デジタルコンテンツ、数値データ等）
- 研修・ワークショップスペース

【展示イメージ】



5. 復興への挑戦

概要

逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介する。

廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの行政の取り組み、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信することにより、県内の他施設、地域への回遊を促す。

主な展示構成

- 行政による復興への取り組み
- 廃炉の今
- 福島イノベーション・コースト構想の取り組み
- みらいのまち
- 県民によるチャレンジ
（県民による復興への取り組み）

展示等内容

- 映像資料（証言、プロモーション等）
- 実物資料
- 解説（デジタルコンテンツ、図表、文章等）

【展示イメージ】



プロローグシアター

原子力発電所と共存してきた地域の日常が、3. 11の震災をきっかけに一変した。地震、津波、そして原子力発電所事故というこれまで経験したことのない複合災害に直面し、手探りで対応した多くの人々の状況を、当時の映像を組み合わせることで伝え、続いて見学する展示ゾーンのエントロダクションとしての役割を担う。当たり前の日常が災害により突如一変することを意識させ、この災害の「自分事化」のファーストステップの場とする。

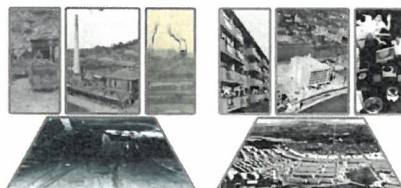
1 イントロダクション

県内各地の自然風景等の映像をとおして、福島県について紹介していく。



2 エネルギーの変遷と福島

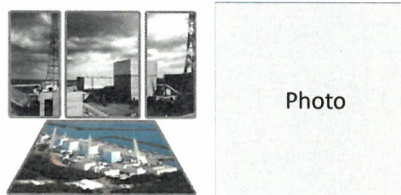
日本全体のエネルギー変遷を背景に、福島県のエネルギー産業も変化してきた。



映像内容 戦前戦後の福島の産業を当時の資料や坑道内部をイメージさせる映像で構成。

3 原子力発電所と地域の共存共栄の様子

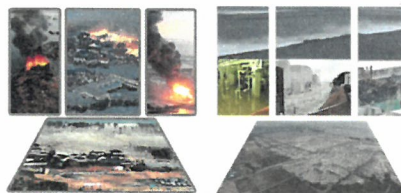
原子力発電所が建設され、発電された電気は日本の経済を支えた。地域も原子力発電所と共存しながら発展し、平穏な地域の日常が営まれていた。



映像内容 資料映像を中心に構成。建築中の原子力発電所や、原子力発電所が完成した当時の様子を紹介。

4 3.11

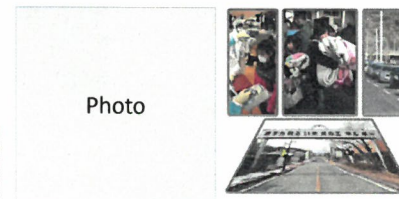
巨大な地震の発生、大津波の襲来。原子力発電所へも津波が襲い、平穏な日常生活が一変する...



映像内容 地震・津波から原子力発電所建屋の水素爆発までを、全画面マルチスクリーンで表現。

5 原子力発電所事故、避難の開始

大気中に放出される放射性物質。避難場所を転々とし、先の見えない不安を抱く人々。当時の映像を組み合わせ、避難開始時の混乱した状況を伝える。



映像内容 当時の素材を組み合わせ、避難時の困難さを伝える。目線イメージとして、スクリーニング検査を受ける避難者の様子や、避難者の見た町等、主観映像を入れる事で、だれでも日常の中から災害という非日常に巻き込まれる可能性がある事を示唆する。

6 避難を余儀なくされた町

住民が避難した後の町並み。長期にわたる避難生活。風評等による産業への打撃。原子力災害特有の困難な状況を伝える。



映像内容 長期にわたる避難生活や風評、荒廃する町並みといった原子力災害特有の苦しみを描く。避難指示区域内の町や、耕作されなくなった畑など

7 除染～帰還へ

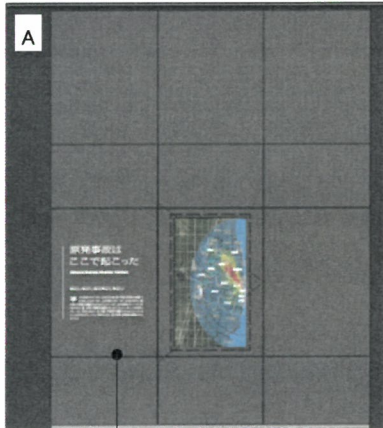
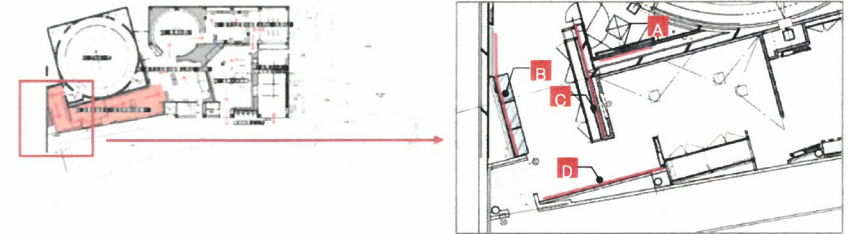
除染作業が進み、避難指示が順次解除されている。廃炉作業等、復興への道のりは時間がかかるが、一歩ずつ復興へ歩みを進める姿を見せる。



映像内容 長期化する避難生活、除染作業、廃炉作業、避難解除に伴う住民の帰還に関する映像を組み合わせ、徐々に復興へ向かっていく様子を表現します。(Jヴィレッジ、ロボットテストフィールド等)

1-1
事故前の暮らし

事故前の原子力発電所周辺の暮らしはどのようなものだったのか？祭りや行事、学校生活、商店の賑わい、地元の経済を支えていた各種産業など、日常をかたちづけていたものごとを記録や証言を通し、描き出す。

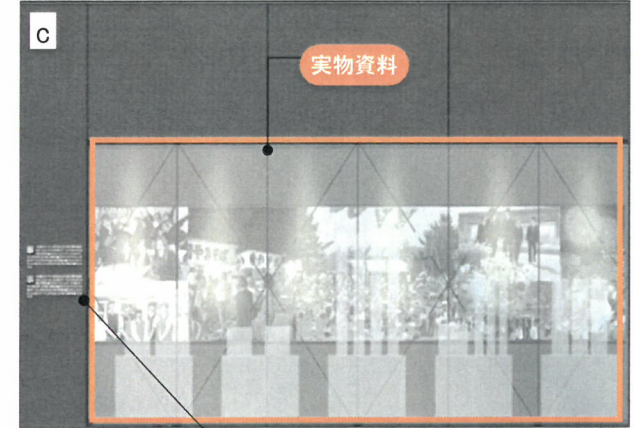


0. 原子力発電所事故はここで起こった（地図解説）



3. 祭事・行事・地域の日常を示す映像

2. 原子力発電所周辺の地域特性、事故前の地域産業、相双地域の歴史と文化（解説）



1. 証言映像

4. 原子力発電所と地域社会（解説）



実物資料（候補）

- ・ 学校生活に関する実物資料
- ・ 地域の生活、伝統（行事、祭り）を伝える実物資料
- ・ 原子力発電所の広報、地域との関係に関わる実物資料

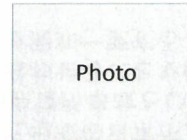


手提げ袋（〇〇〇）



Photo

賞状（富岡高校）



Photo

船名や屋号の焼印（〇〇〇）



双葉だるま市のダルマ（双葉町）



大堀相馬焼2012年制作（浪江町）



地域に配布された広報誌アトムふくしま（冊子）

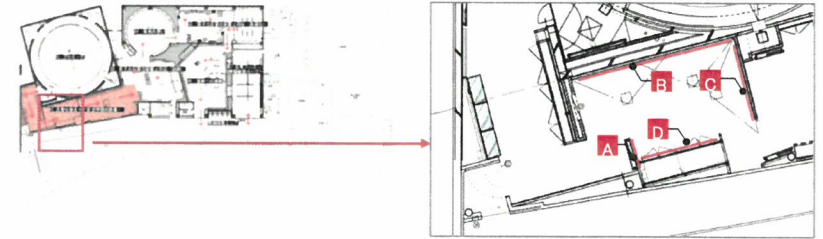


原子力発電に関する広報ビデオ

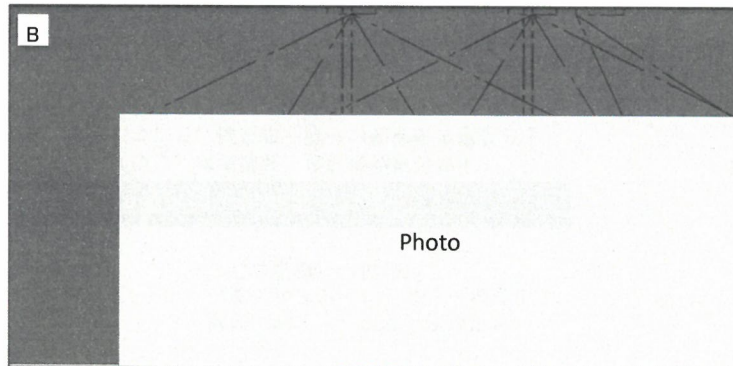
1-2

東日本大震災
～地震と津波の記録～

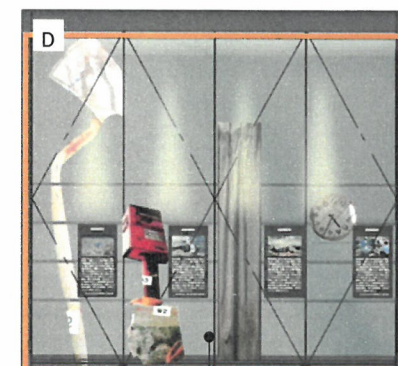
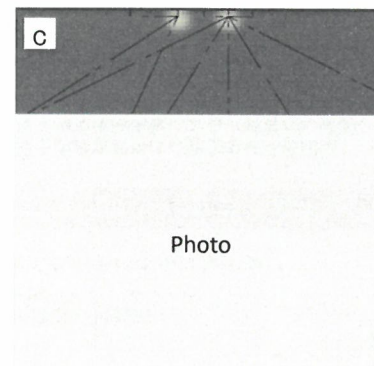
原子力発電所事故のきっかけとなった地震と津波の被害について、当時の映像や被災した実物資料を通して伝える。また、地震・津波発生前の穏やかな時の流れと、被災後の状況を対比し、被害の大きさを感じてもらおう。



1. 証言映像



2. 地震・津波の様子（映像）



実物資料

2. 地震・津波の様子（映像）

福島県沿岸部を壊滅させた地震・津波の恐ろしさを、実写映像を組み合わせ、時系列に沿って3面マルチ映像で映し出す。



実物資料（候補）

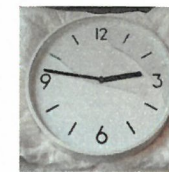
- ・ 発災時間の記録資料
- ・ 地震による被災痕跡
- ・ 津波による被災痕跡



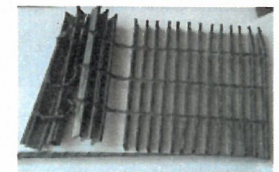
津波被災交通標識（双葉町）



津波被災郵便ポスト（双葉町）



地震の時刻を示す時計（保原高校）



地震で変形したグレーチング（〇〇〇）



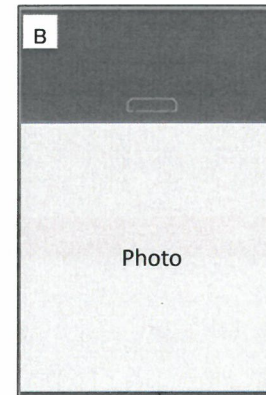
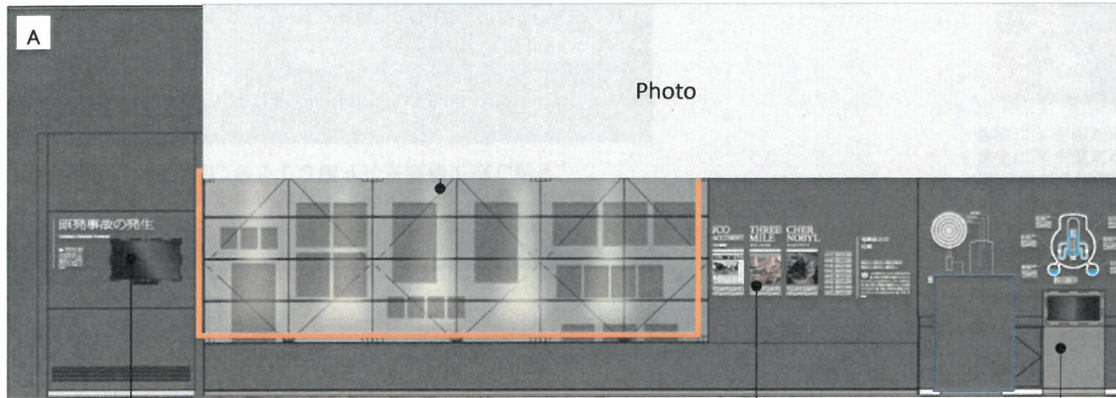
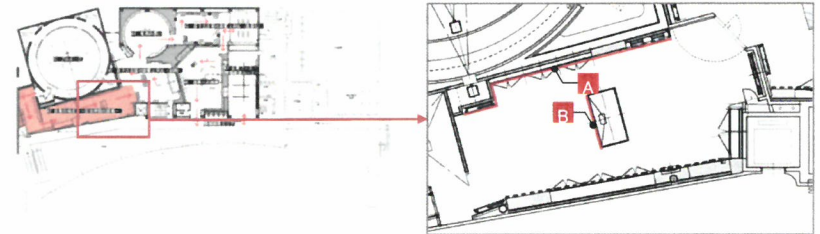
津波の時刻を示す時計（〇〇）



地震により落下した大型照明器具 富岡高校

1-3
原子力発電所事故の発生

津波到達後、原子力発電所で起きた事象について、原子力発電所模型や解説映像によりたどっていく。



1. 証言映像

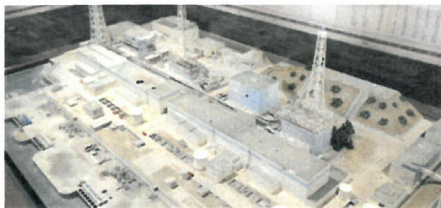
3. 過去に起こった原子力関連事故
(チェルノブイリ、スリーマイル、
JCO事故) (解説)

4. 原子力発電の仕組みと
安全対策
(解説・タッチパネルコンテンツ)

2. 原子力発電所事故解説映像／原
子力発電所模型

2. 原子力発電所事故解説映像／原子力発電所模型

地震発生、電源喪失、メルトダウン、水素爆発、放射性物質の放出...
原子力発電所内で起きた事象について、福島第一原子力発電所の模型とそ
の上に設置された瞬間調光ガラスを活用した演出映像で紹介する。



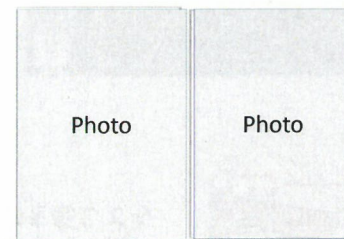
福島第一原子力発電所模型
(参考：環境創造センター)



福島第一原子力発電所空撮
(東京電力HP)

実物資料 (候補)

- ・原子力発電所事故の発生を伝える新聞
- ・原子力発電所事故による(特有な)痕跡
- ・原子力発電所事故に対応した当事者の記録



原子力発電所事故の発生を伝える新聞記事



事故対応時に使用された
電源復旧用ケーブル (同等品)



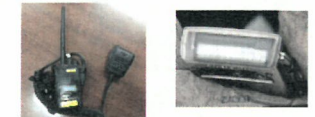
避難指示区域内に
残された3月12日付
の新聞 (大熊町)



1F 給水支援のために持ち出さ
れたホース (双葉消防本部)



1F 構内に入った双葉消防車両内の
車載用無線機

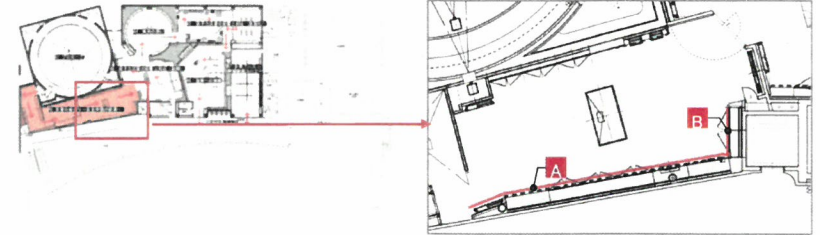


隊員が使用した携帯用無線機と
個人線量計

1-4

災害対策本部の記録

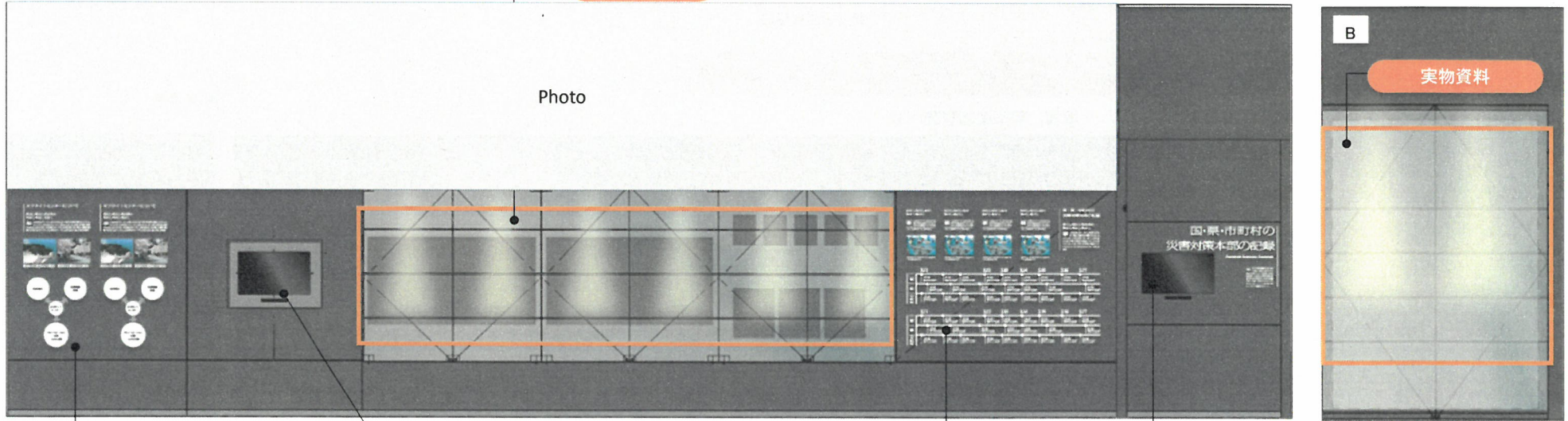
かつて誰も経験したことのない事態に直面し、懸命に対応した人々の記録を、当時の映像や実際に使用されていた実物資料を通して、当時の緊迫間とともに伝える。



実物資料

実物資料

Photo



4. オフサイトセンターについて (解説)

3. 当時の報道映像による記録映像

2. 各行政機関の対応記録 (解説)

1. 証言映像

実物資料 (候補)

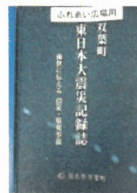
- ・国、県、市町村の対策の記録
- ・オフサイトセンター関連資料



国会事故調報告書



県災害記録誌



市町村災害記録誌



OFC 詰
防災服
(双葉消
防本部)



福島第一原子力発電所
周辺図



1Fの状況を書き出した原子カ
ンターホワイトボード

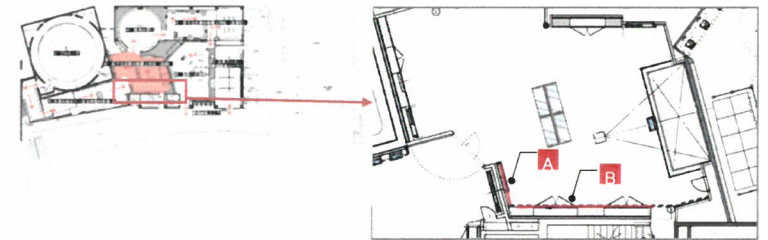


オフサイトセンター内
ホワイトボード

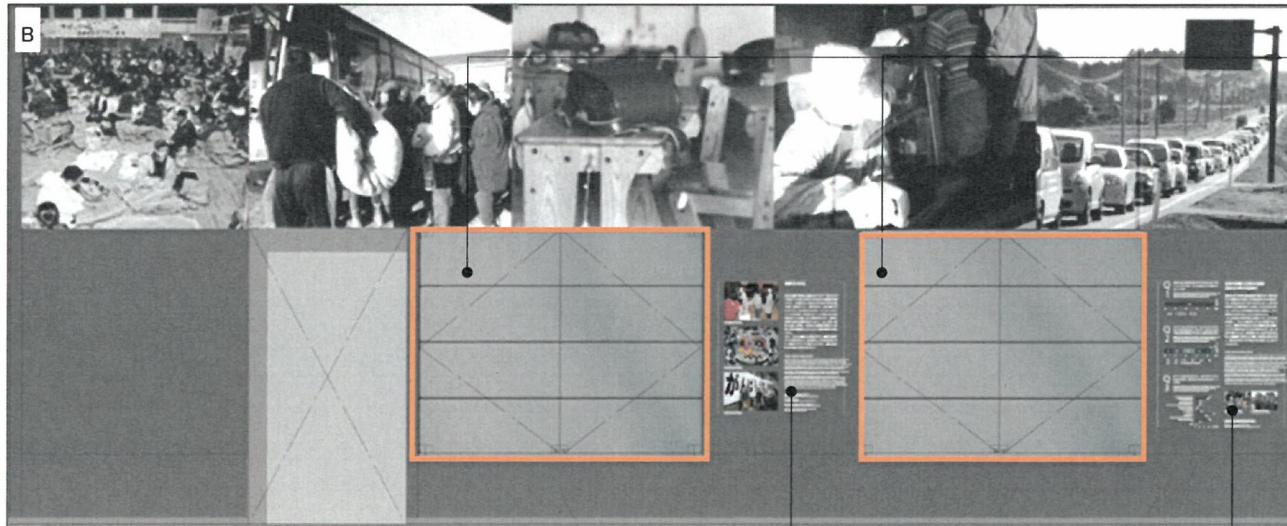
2-1

避難の開始

避難開始当時を振り返る証言を通し、先が見えない状況で故郷を離れ、避難所を転々と移動しなければならなかった人々の想いを想像し、共感を深めてもらう。
 また、避難所で使われた品々の展示を通して、当時の避難生活の教訓を伝えるとともに、現在の防災計画との比較等を通して、災害への日頃の備えの重要性を訴求する。



1. 証言映像



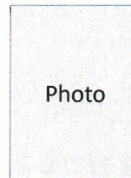
3. 避難所の生活 (解説)

2. 突然の避難と度重なる移動 (解説)

実物資料

実物資料 (候補)

・避難状況の記録



救急受入患者名簿
(大熊町：大野病院)



トリアージタグ
(大熊町：大野病院)



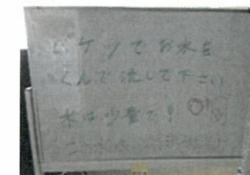
避難所で暖をとるために使用されたストーブ (〇〇)



寒さをしのぐため使用されていた体育館の暗幕カーテンとマフラー (〇〇)



川内村に避難した方が残したメッセージ黒板

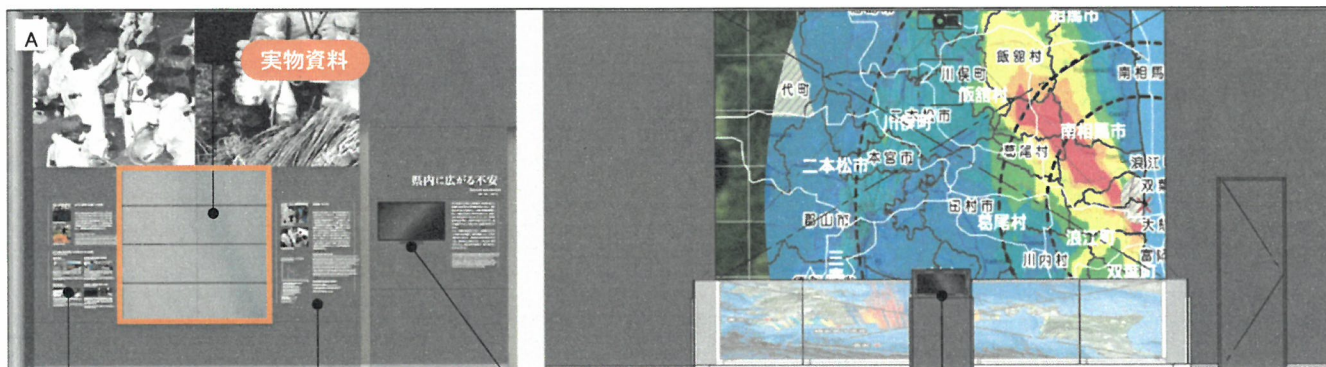
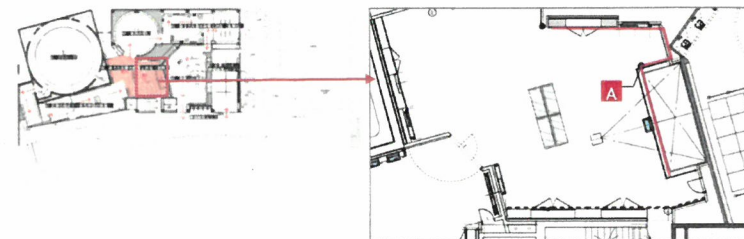


トイレ使用の際のお願いを記したボード (〇〇)

2-2

県内に広がる不安

「放射線」という目に見えないものの脅威に初めて晒され、混乱した当時の状況や対応を、放射線の影響範囲や避難指示区域などの情報と共に伝える。
 また、未だに続く風評の始まりとして、原子力発電所事故により福島県が被った産業の影響の大きさを伝える。

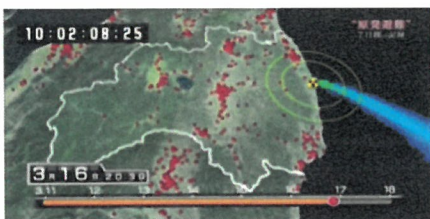


3. 原子力災害の産業への影響（解説）
 2. 放射線への不安（解説）
 1. 証言映像

4. 避難の推移など「原発避難の7日間」（映像+マップ）

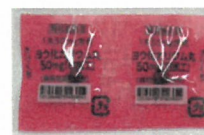
4. 避難の推移など「原発避難の7日間」

膨大なビッグデータや当事者の証言から明らかになってきた、3月11日の発災から18日までの7日間の軌跡を、当時の実写映像とビッグデータ（NHK協力）による解析映像をシンクロさせることで分かりやすく提示し、災害初期における行動の重要性を改めて訴求する。



実物資料（候補）

・放射線の影響に関する資料



避難所で配布された安定ヨウ素剤



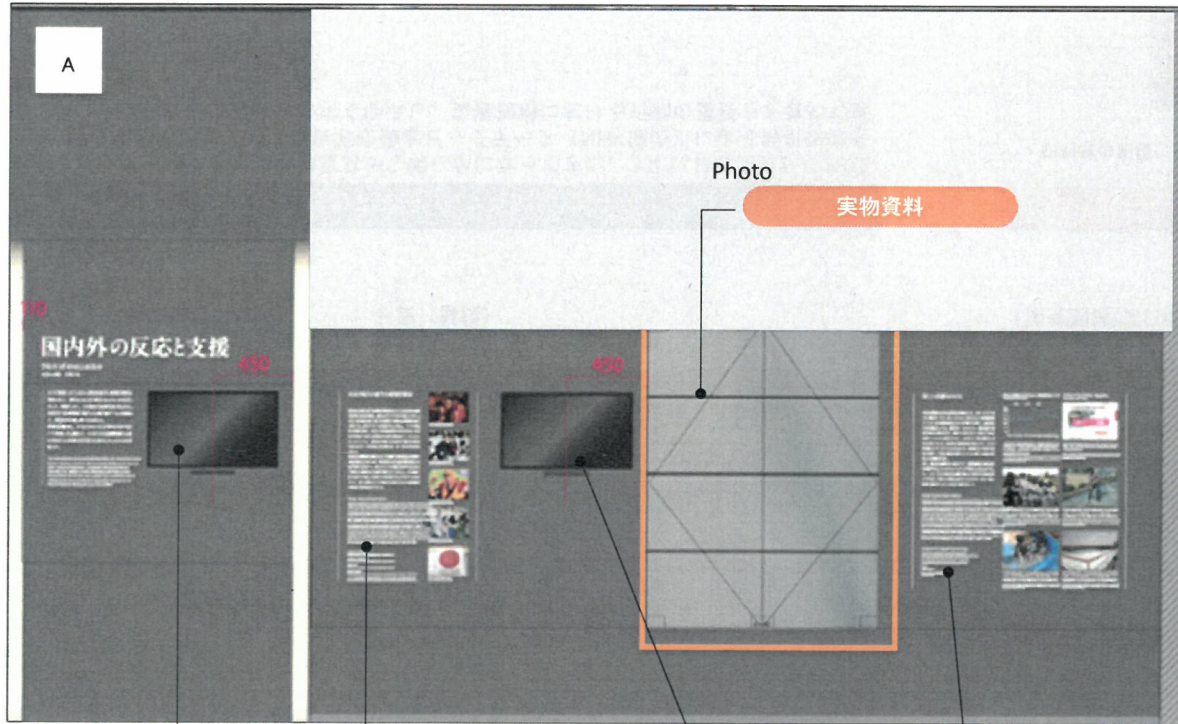
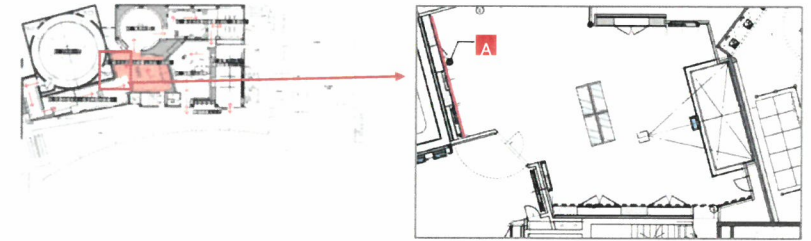
除染を進めるように発行した広報誌

Photo	Photo
Photo	食品等スクリーニング検査結果通知書 （消費者が自治体の検査場で測定したもの）

2-3

国内外の反応と支援

原子力発電所事故の発生に対する国内外からの反応について、海外の報道映像等を通して紹介する。さらに東日本大震災をきっかけに始まったクラウドファンディングやSNSを活用した支援など、これまでの大規模災害とは異なる取り組みを伝えるとともに、様々な支援に対する感謝を伝える。



1. 証言映像

2. 世界が捉えた原子力発電所事故 (解説)

3. 事故発生当時の海外の報道・支援など (映像)

4. 新しい支援のかたち (解説)

Photo
実物資料

実物資料 (候補)



聯合報 (台湾)



ザ・タイムス (英国)



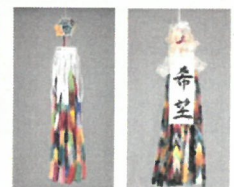
大丈夫、ニッポンTシャツ (ヨルダン)



国内企業からの物資と応援メッセージ



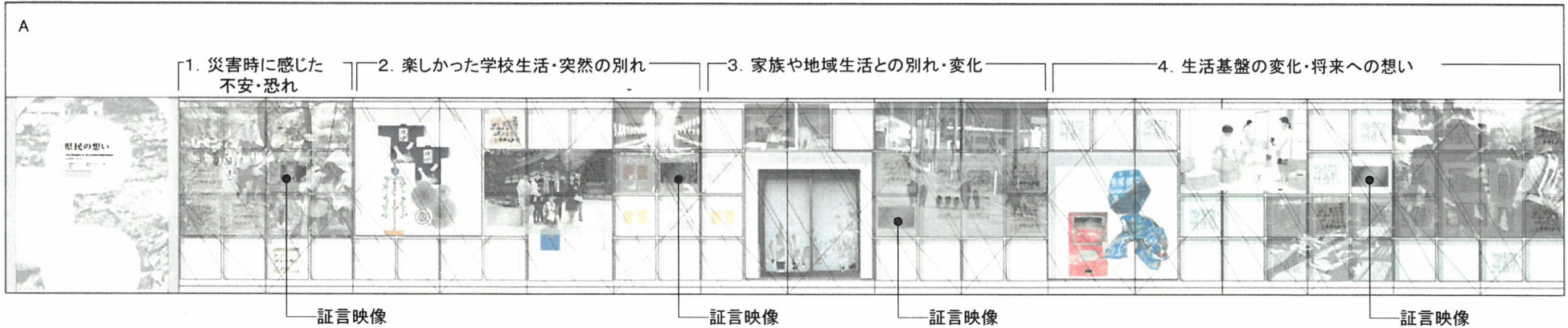
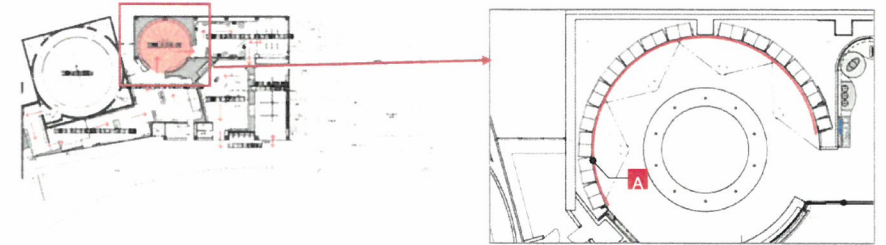
ウクライナなどからの寄せ書き



寄せられた千羽鶴

- 3-1 災害時に感じた不安・恐れ
- 3-2 楽しかった学校生活・突然の別れ
(旧: 楽しかった学校生活と突然の別れ)
- 3-3 家族や地域生活との別れ・変化
(旧: 家族との思い出や地域生活との別れ)
- 3-4 生活基盤の変化・将来への思い
(旧: 生活基盤の喪失と将来への不安)

平穏な日常が原発事故後にどのように変わってしまったのか、県民の思いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせで発信する。
特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評など、原子力災害特有の事象を中心に発信する。

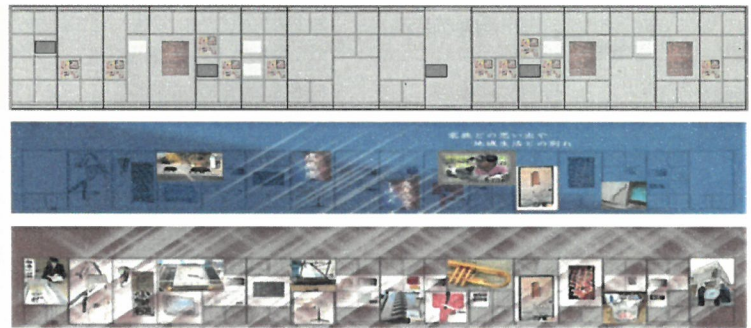


震災関連資料の展示と映像の複合演出で県民の想いを伝える

原子力発電所事故前と事故後の人々の暮らし、心情の変化を、証言映像と展示物を組み合わせ、スクリーン全体を活かしたマルチ映像で表現。

※映像演出については、10分に回等、展示全体の所要時間と調整しながら上映頻度を検討。

通常時	震災関連資料展示	・震災関連の資料展示として活用
	証言映像	・証言映像
映像演出時	映像と展示物の複合演出	・映像の一部が透けて展示物が見える演出やプロジェクションマッピングの手法を用いて、来館者のイメージを増幅



※実物資料候補は次ページ

実物資料（候補）

3-1 災害時に感じた不安・恐れ

・災害発生時の様子が伝わる資料



津波により漂着した腕時計、ぬいぐるみ (〇〇〇)



1 F 2 F 構内冷却支援・消火活動に加わった際に、
双葉消防本部隊員着用のヘルメットと防火衣

3-2 楽しかった学校生活・突然の別れ

・楽しかった学校生活や、避難等による別れに係る当時の思いが伝わる資料



新学期席替え表 (〇〇〇〇)



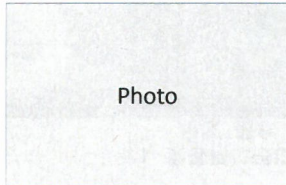
作りかけの生徒作品 (富岡高校)
(突然の避難により残されたもの)



卒業へ向けた生徒のメッセージ
(富岡高校)

3-3 家族や地域生活との別れ・変化

・家族や地域生活との思い出、別れ、変化を示す資料



〇〇〇〇〇田植え踊り、
早乙女着物笠 1 式



野生動物に荒らされた襖・畳 (建具) と缶詰

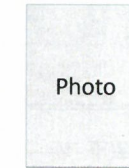


3-4 生活基盤の変化・将来への思い

・生活基盤の変化や、将来への不安を感じるきっかけとなった資料



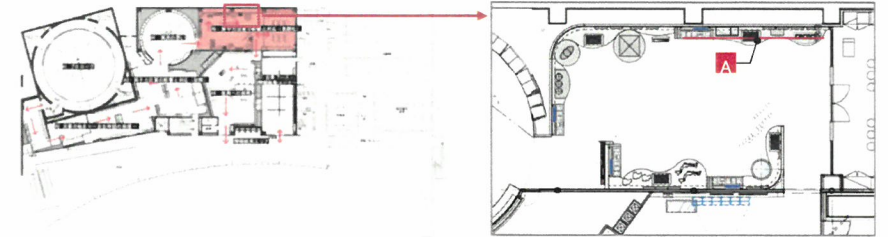
出荷制限等に係る資料



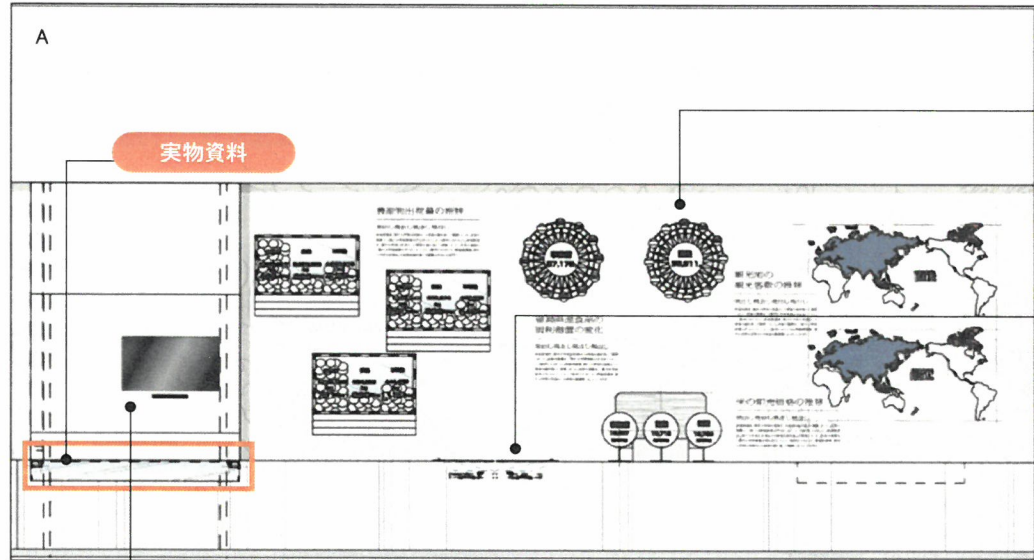
警戒区域内家畜安楽死措置
実施証明書

4-2 風評の払拭

原子力発電所事故が産業に与えた影響とともに、県内で実施されてきた風評払拭の取り組みを紹介する。



※立体グラフィックでは概要、タッチパネルコンテンツでは詳細を取り上げる形で連動。



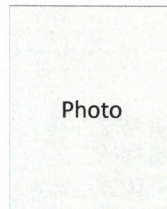
実物資料

1. 研究者インタビュー

- 2. 立体グラフィック解説
 - ・コラム「風評とは」
 - ・主な農林水産物価格の推移
 - ・観光客数の推移
 - ・福島県の公立学校の給食における地場産物活用の割合
- 3. タッチパネルコンテンツ (※調整中)
 - ・主な農林水産物に関する推移データ
 - ・放射線に関する正確な情報、知識普及の取り組み
 - ・県産品の魅力発信等の取り組み
 - ・観光客数等の推移データ
 - ・観光誘致等の取り組み

実物資料 (候補)

・風評の払拭に関係した資料



山菜検査表数年分



風評対策キャンペーンポスター、チラシなど



ふくしまマップ



ふたばぐるぐるマップ



Photo



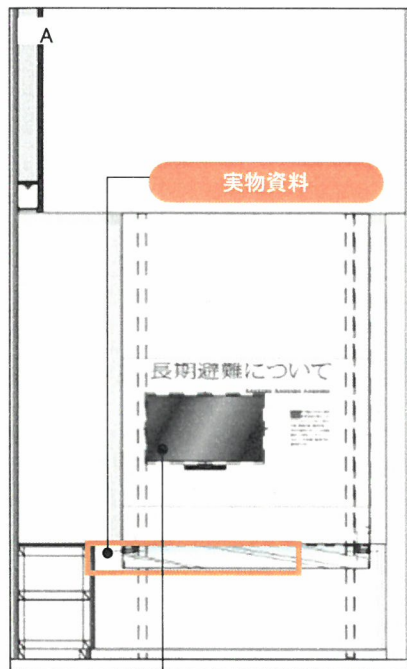
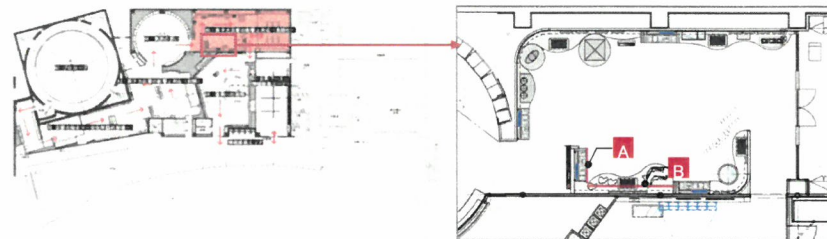
Photo

宿キャンセル状況記録

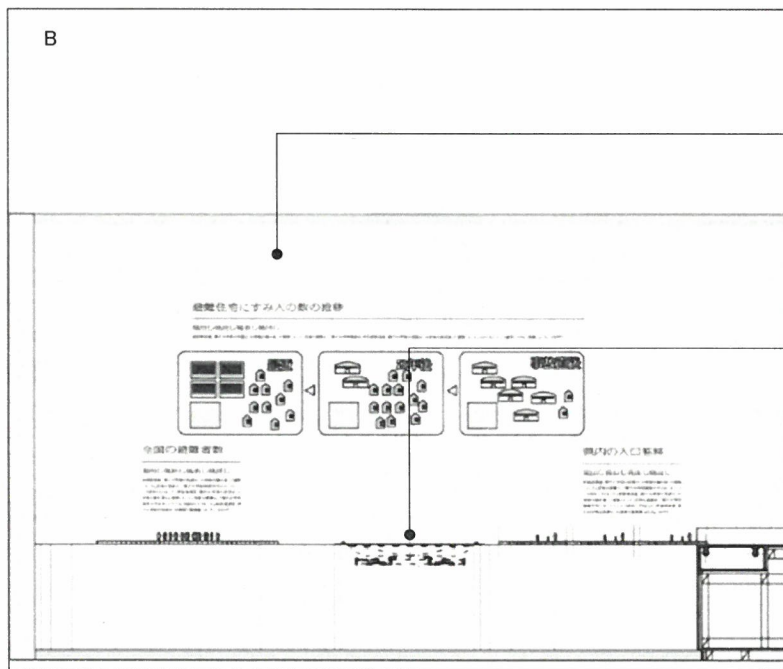
4-3

長期避難への対応

長期避難がもたらす問題は、住居、子育て、コミュニティ形成など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取り組みを紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。



1. 研究者インタビュー



※立体グラフィックでは概要、タッチパネルコンテンツでは詳細を取り上げる形で連動。

- 2. 立体グラフィック解説
 - ・県内人口の推移
 - ・避難者数の推移
 - ・コラム「避難者向け住宅とは」
 - ・避難者向け住宅の建設状況
 - ・避難者の帰還準備に向けた取り組み

- 3. タッチパネルコンテンツ
 - ・県内外の避難者数
 - ・避難指示区域の推移
 - ・住民意向調査の結果
 - ・全国避難者数
 - ・学校数及び生徒数の推移 (※調整中)

実物資料 (候補)

・長期避難に関係した資料

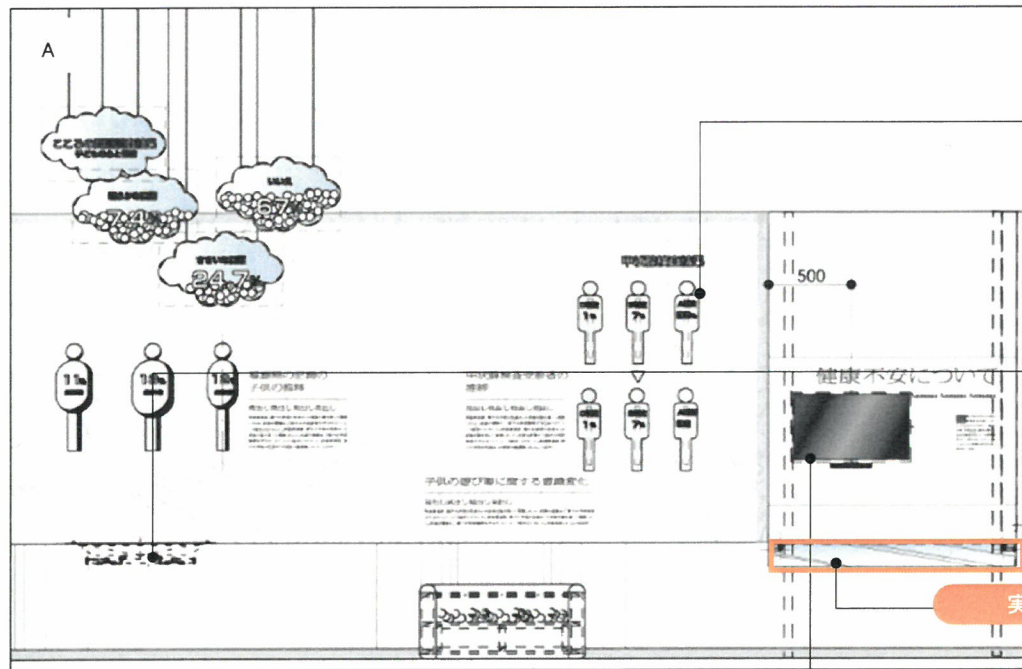
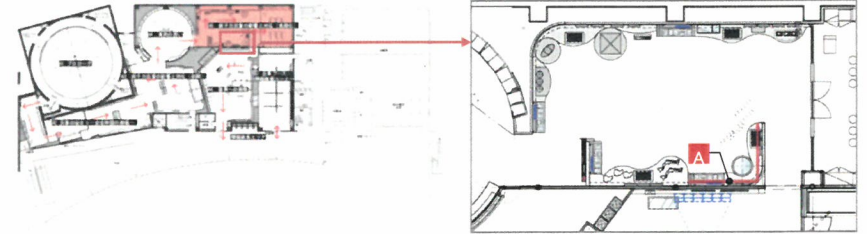
Photo	Photo	Photo	Photo
ふるさと帰還通行カード	被災証明書	公益一時立入車両通行許可証 (○○○)	避難生活中に書かれた日記

4-4

健康に関する取り組み

(旧:健康不安への対応)

原子力発電所事故由来の放射線による健康への影響は確認されていないが、県民の健康状態を把握し、健康維持、増進を図るために実施されている様々な取り組みについて紹介する。



※立体グラフィックでは概要、タッチパネルコンテンツでは詳細を取り上げる形で連動。

2. 立体グラフィック解説
- ・ 県民の放射線健康不安に関する調査結果 (※調整中)
 - ・ 「県民健康調査」とは
 - ・ 子どものこころの健康度に関する調査結果
 - ・ 福島県の子どもの体力等の変化
 - ・ 子どもの遊び場に関する保護者の意識変化

3. タッチパネルコンテンツ (※調整中)
- ・ 「県民健康調査」とは
 - ・ 福島県の子どもの体力等の変化
 - ・ 県民の健康増進に関する取り組み等

実物資料 (候補)

- ・ 健康に関する取り組みに関係した資料

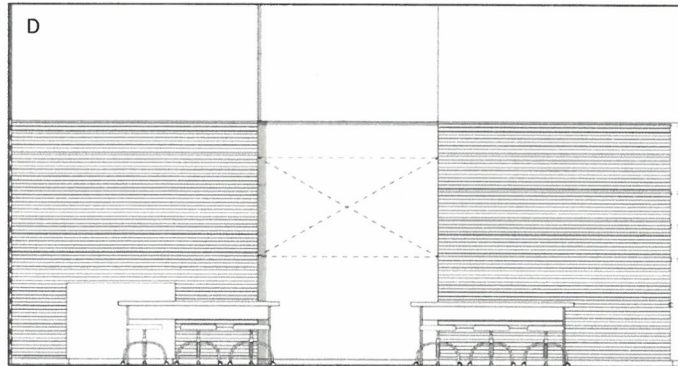
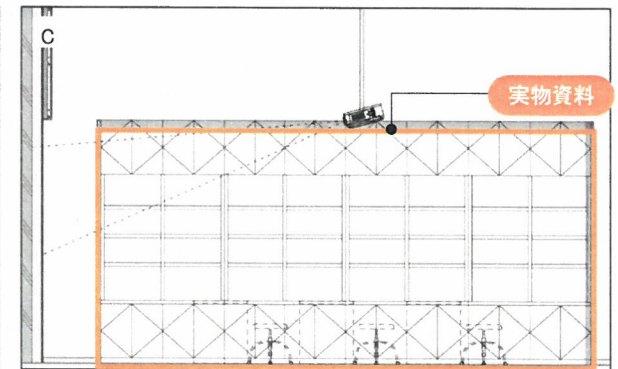
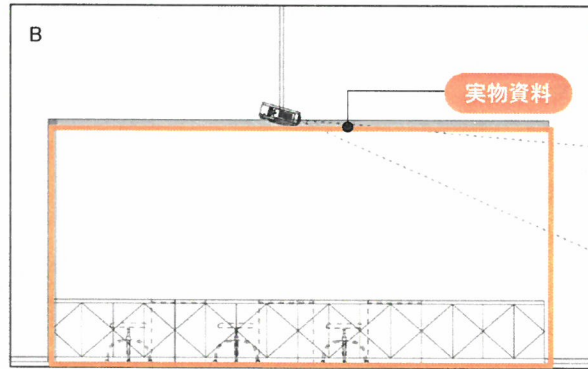
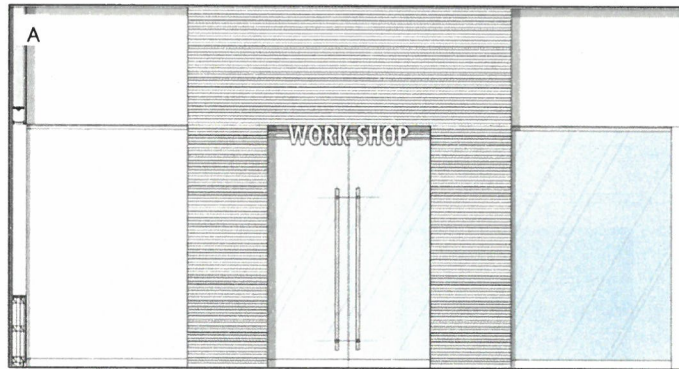
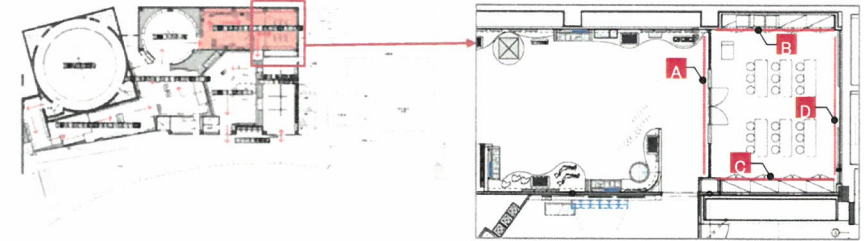


県民健康調査基本調査問診票 貸出ガラスバッジ

4-5

研修・ワークショップ

防災・減災に関する学習やワークショップ、研修が実施できるスペース。様々な資料、機器、装置を活用したデモや検査などの体験を予定。



実物資料 ※検討中(参考)

・研修・ワークショップで活用できる検査器など



各種線量計



全量全袋検査機模型



座椅子型
ホールボディ
カウンター

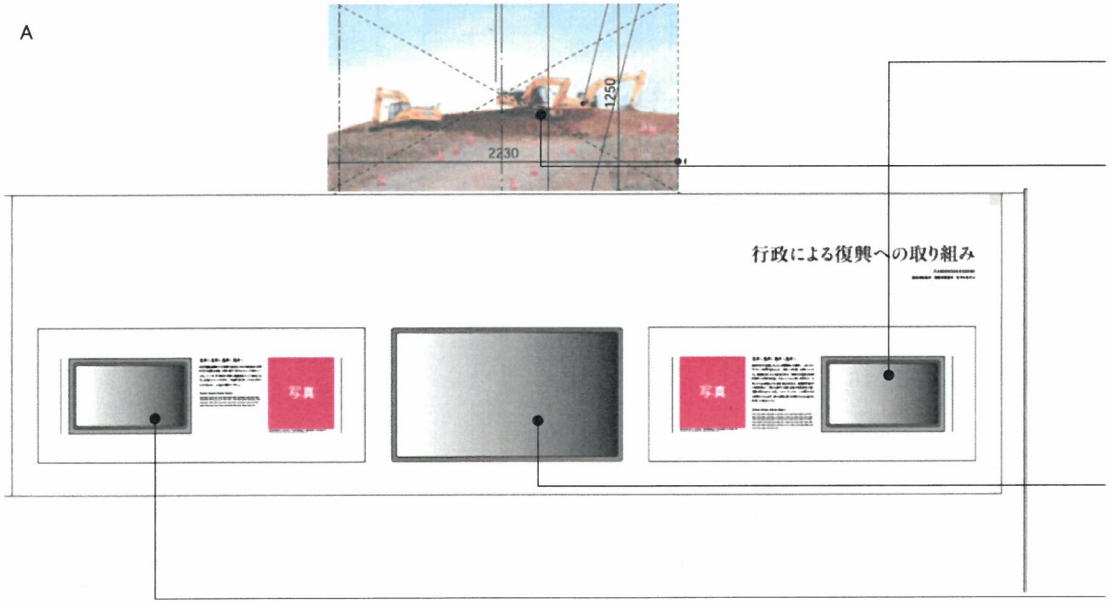
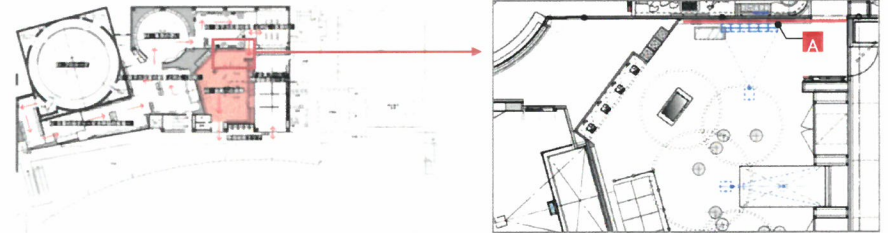


除去土壌等の保管に関する
住民説明用模型キット

その他研修に使用する資料・機器・装置など

5-1
行政による復興への
取り組み

災害の発生からこれまでの復興の歩みと、現在の取り組みについて、最新情報を届ける。
更新可能な展示システムを整備し、産業の復興、まちづくりの状況など、常に新しい情報を得られる場とする。



- 1. 証言映像
- 2. 復興する街 ※調整中
(タイムラプス映像)
- 3. デジタル復興年表 ※調整中
- 4. 行政による復興への取り組み事例 (スライドショー)
※調整中

2. 復興する街 タイムラプス映像

原子力発電所事故により避難を余儀なくされた地域における復興の進捗情報をタイムラプス映像で伝える。

タイムラプス映像イメージ マリンハウスからの風景



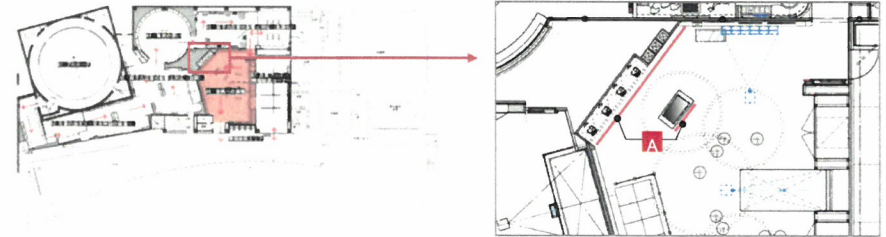
3. デジタル復興年表

災害の発生からこれまでの復興の歩みについて紹介する。
また、復興に向けた様々な取り組みに関する最新情報を届ける。更新可能な展示システムを整備し、除染の進捗や産業の復興、新しいまちづくりの状況など、常に復興に関する新しい情報を得られる場所にする。

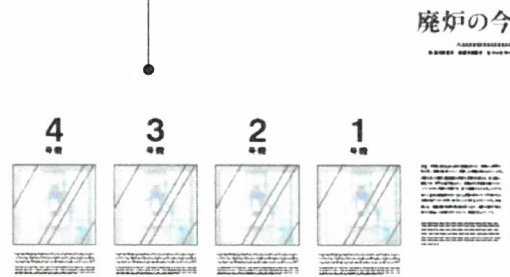
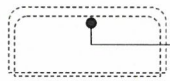
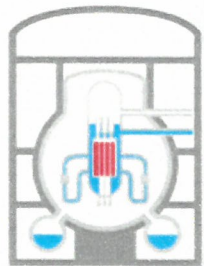


5-2
廃炉の今

福島第一原子力発電所における廃炉作業の内容をタッチパネル解説等で分かりやすく伝える。事故発生から現在までの時系列に沿って、作業経過や廃炉に関連して開発された技術などの情報発信を行う。



A



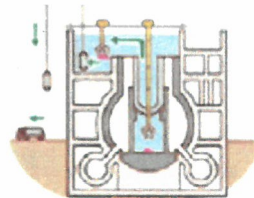
1. 福島第一原子力発電所1号機～4号機の事故直後の状況（模型＋解説）

2. 廃炉の進め方
（壁面プロジェクションマッピング）

3. 廃炉のあゆみ ※調整中
（タッチパネルコンテンツ）

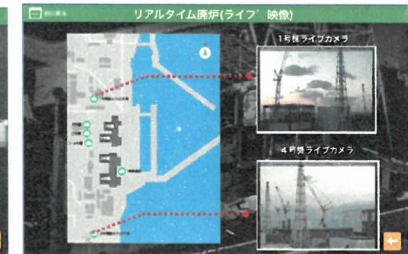
2. 廃炉の進め方（壁面プロジェクションマッピング）

プロジェクションマッピングの手法を用い、壁面イラストに廃炉の進め方を段階的に解説するとともに、存在する課題への理解を進め、廃炉作業の難しさや重要性を伝える。



3. 廃炉のあゆみ（タッチパネルコンテンツ）

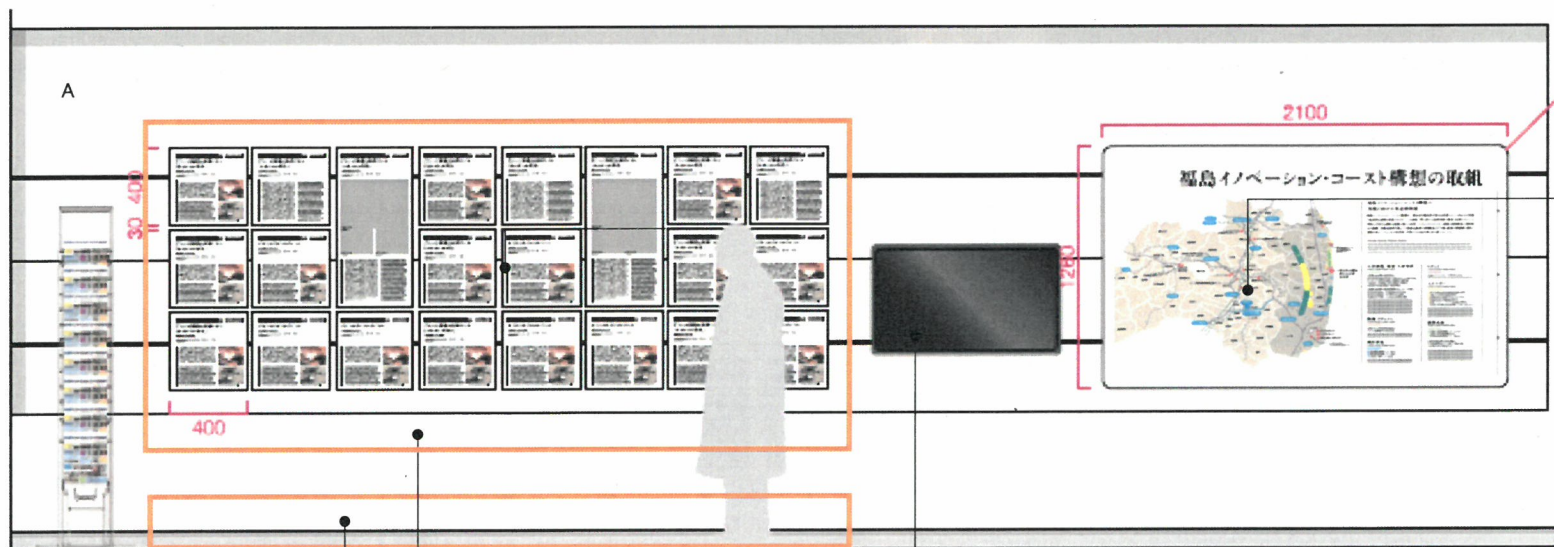
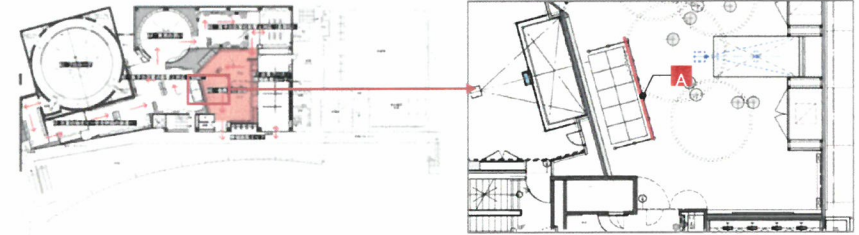
事故発生から現在に至るまでの時系列を自由に操作できるようにし、その時の建屋の外、中など廃炉の経過を伝える。あわせて、これまでの経過や全体工程の中での進捗、廃炉に関連して開発された技術などの情報発信を行う。



5-3

福島イノベーション・コースト構想の取り組み

浜通り地域等の産業回復を目指す福島イノベーション・コースト構想と連携し、先端技術のデモンストレーション等を通して、最新の取り組みを紹介する。また、新産業の現場への回遊、ツーリズムの紹介などを行うゲートウェイとして機能させる。



1. 福島イノベーション・コースト構想の取り組み（解説）

実物資料
(可動式ステージ台)

3. 各分野の取り組み紹介及び実物資料
※随時入れ替え

2. 解説映像

実物資料 ※検討中(参考例)

・研究・イベントに沿った展示物を関係企業、団体などと連携する。

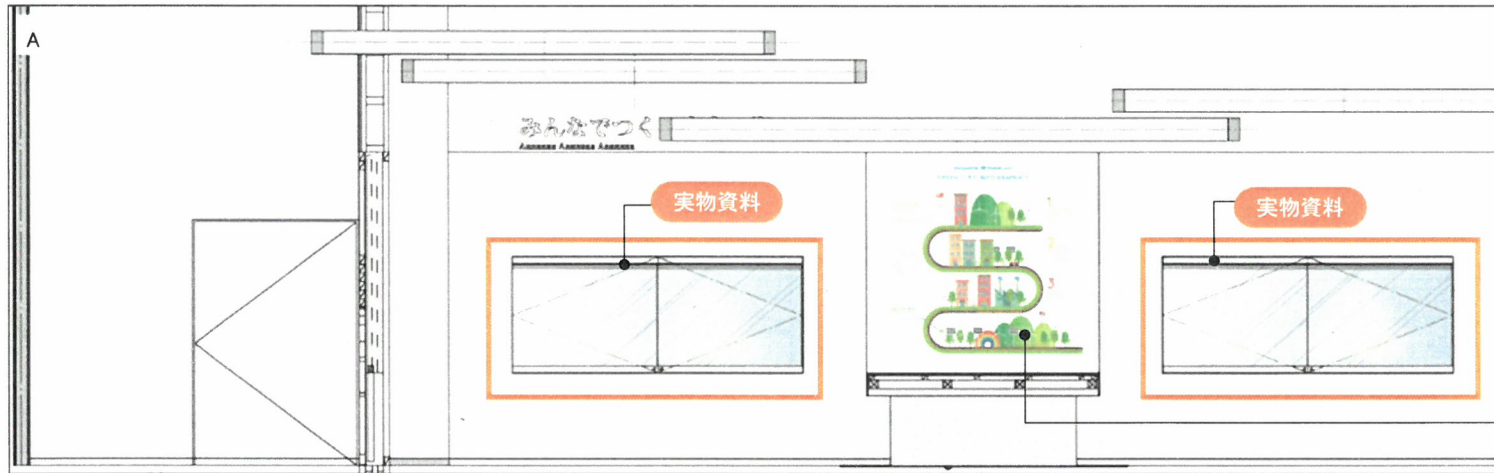
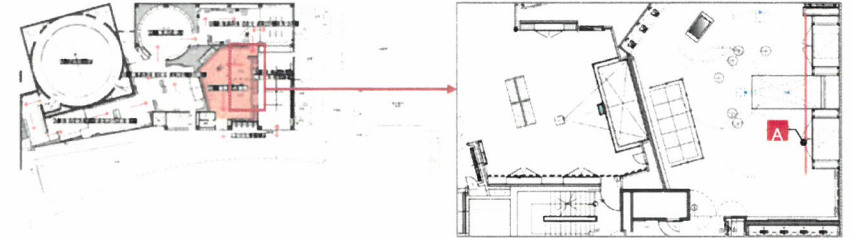


企業の産業用ロボット（参考例） JAEAによる実験の様子

5-4

みらいのまち

来館者が「こうなったらいいな」と思い描く未来のまちを一緒に想像してもらい、福島の未来について考えるきっかけとする。



1. みんなで作るみらいのまち (シミュレーションゲーム)

1. みんなで作るみらいのまち (シミュレーションゲーム)

来館者が「こうなったらいいな」と思い描く未来のまちを作り上げていくシミュレーションゲーム。同時に6人が体験でき、いくつかのアイテムを選択すると、それに応じてまちが作られていく。また、まちづくりの過程で、福島イノベーション・コースト構想の取り組みについても紹介していく。

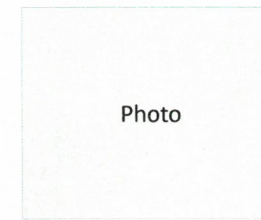


実物資料 (候補)

・他事業で製作されたみらいの街と震災前の街模型



子供達が描いた『みらいのまち』の原画



〇〇〇〇〇〇地区の昔の様子模型



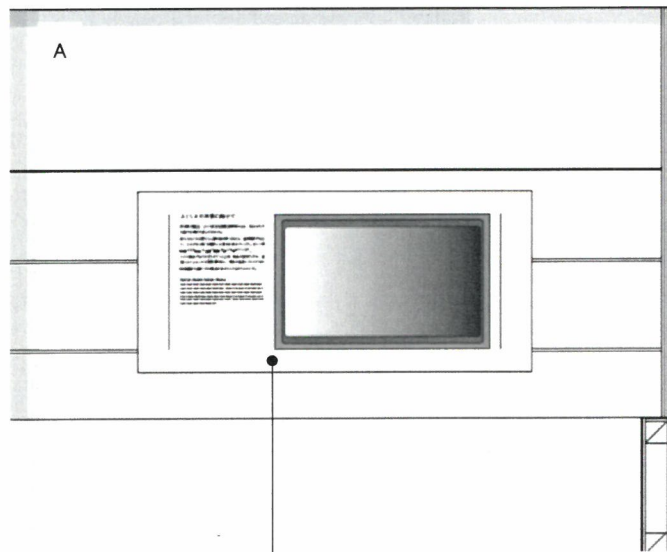
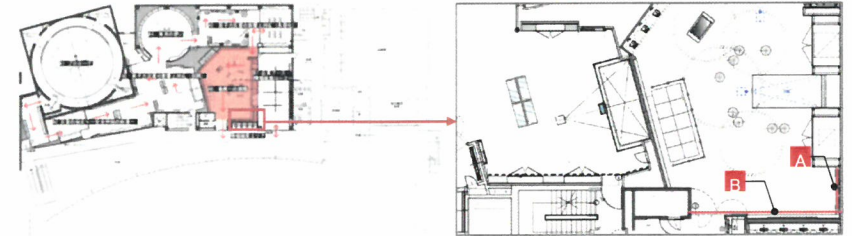
〇〇〇の子供達が作った未来の街模型

5-5

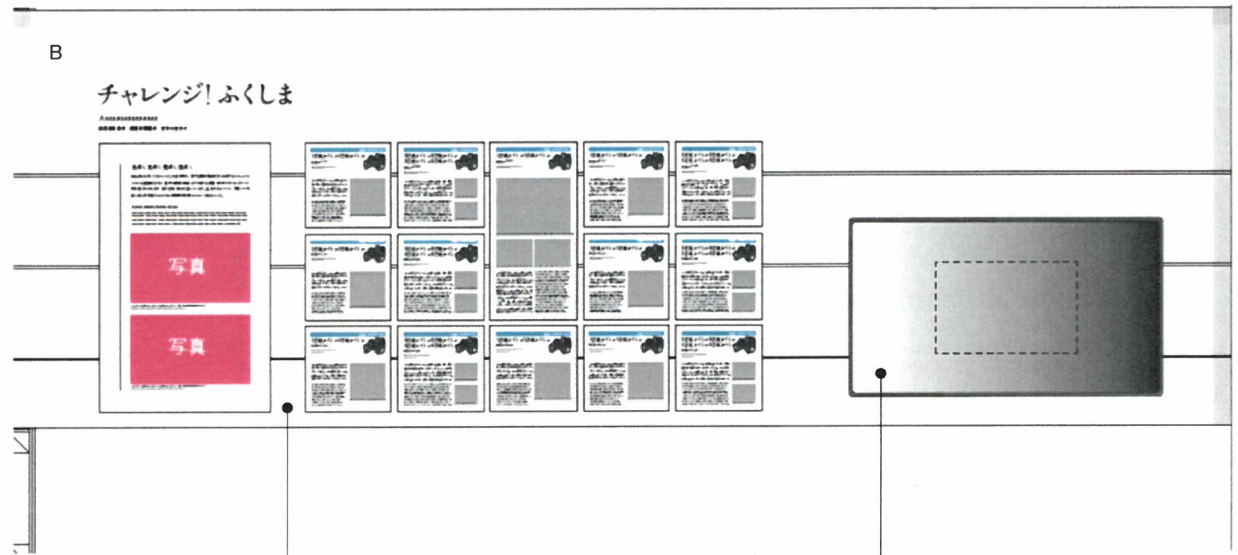
県民によるチャレンジ
(旧:チャレンジ!ふくしま)

(県民による復興への取り組み)

原子力災害によって県民が直面した様々な困難。それを乗り越え、地域の再生に向けた取り組みなど、県民によるチャレンジを紹介する。随時更新可能な展示システムとし、常に新しい取り組みを紹介するとともに、未来への県民の想いを伝える。



1. モザイクアート
(H30 生涯学習課事業で製作)



2. 各分野の取り組み紹介
及び実物資料
※調整中

3. 県民の未来への思いメッセージ
(映像) ※制作中